二十四日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢　□郵税 金十五錢　□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢　□雜報欄 金九十錢　□場所指定一行 金一圓増
□電話（平）七八六番　□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行兼編輯印刷人 森合英

閼伽井嶽

警戒心を悲しむ

高木稻水

先頃青瀧の堤を見學しようと思つて午後四時十五分のバスで草野に行つた。郵便局長の新妻君がゐた筈だから自轉車でも借りて飛ばさうと云ふ豫定だつた。ところが生憎留守だ。折から局の方から來た男を捉へていろ〳〵話したがひどく警戒してゐるやうで貸さうとも貸りてやらうともしてくれぬ。まゝよと思つて歩いて行つて目的を達して歸つたが胸中妙に破り切れぬものがあつた。

◇

未知の人間であり、おまけに人相も好くないといふのだから相手に警戒されるのは當然であらう、何故なら知人だの友人だのと稱して留守宅から金品を騙取する人間も世間には少くないからだ。

私は新聞人として極めて愉快に相當の使命迄も感じて仕事をしてゐるのだが最近名刺を出したり、電話をかけたりすると何んだか警戒されてゐるやうな感を受ける事が少くない。冷靜に自分が新聞人でなかつた折の新聞人に對する觀察を思ふ時矢張仕方がないと思はざるを得ない。

近頃宣傳がきかなくなつたといふ。田舍の人の人氣が惡いといふ。是も仕方がない。從來幾度か我々は宣傳に乘せられ、田舍者なるがゆゑにだまされて來たからだ、

世の中で何が恐ろしいといつても互が相手を信じられない事だ、何が悲しいといつて他人を警戒しなければならない事だ。滔々たる我國の上下を通じお互に警戒しあつてゐる。デマ發生の温床はそこにある。子曰く「民にして信なくんば立たず」と噫。

文藝

新らしき世の春は來ぬ一億のこころひとつに立ちむかふ春　水町京子

山口ハルエ先生の思出

和田文夫

（六）

先生は一生の三分ノ一以上を磐城の地で過された。小學校でハルエ先生に、女學校で彌一郎先生に教を受けた人も少くないであらう、じつと靜かに居た先生であるけれども彌一郎先生を通してこの地へ大きな足跡を殘してゐると思ふ。女々しい事かは知らぬが十五年を過したこの地で……こんなに早く最後の日が來るのであつて見れば、終つて戴きたかつた。しかし先生は彌一郎先生が全生命とする純學術の爲の東北の眞唯中での御最後は、蓋し本望とするところであつたかも知れぬと思ふのである。

「俺の妻は俺のやつてゐる仕事は何にもわかつてゐないのだが、最もよく俺のやる仕事を理解してゐるのだ。」とは私一人が彌一郎先生から聽いてゐた言葉ではなかつたらう。

ハルエ先生にしても時には自分の私事など又は「私の兄はあんな山の中でタイル張りの風呂場を作り村一番だ等と嬉しがつてゐるのですよ」と言はれたりした事もあつたけれども彌一郎先生の私事については何事も言はれた事がなかつた。

○

天の命ずるところとあれば致しかたあるまいが、さすがに彌一郎先生も「覺悟はしてゐたものゝ」と言つて居れる御心境は御察し出來ます。

恰も一月一日には郡農會の紫田先生を訪れ奥さんと岩手の噂をしたのだつた。此の時もあなたが行かれた時は元氣だつたのでせうと言はれたのだつた。

しばらくして歸つて來られた柴田先生も、「なに彼のことだもの、病氣が惡化したつて、悪いとか困つたとかなんて言つて寄すものか、一人で心の中で泣きながらもひとになんか言ふ男ぢやないからな」と語られた。

私も「さうですね」と頷いたのであつた。（完）

春淺

（四倉）紫涙

猫柳の芽ふく河原の霜かそか曉なれば紫に見ゆ
春淺み線路の土手を燒く子等は素足に草履皆はきて居り
母上のかへります日は明日なりと猫柳苅りてかへる子等はも
兒等は皆歸へりて窓の硝子戸に風の音して日はくれにけり

早春

（平）水戸部光雅

根芹摘む田の畔道や春淺し
芹の香の移る手先や春淺し
笹蔭の筧の音や春淺し

連續講談

異説赤穂浪士

（132）

桃川若燕
畫 城木喬

奥座敷の騒聞

外の寒さに引きかへて內では火鉢と酒の温か味、夫れに年增女の濃厚さでいきれ上るばかりだ。

『妾のやうなお婆さんの相手でさぞ氣が詰るだらうね。平生好いお相手をしてゐるから少しは邪魔をして上げないとお前さんの身体の毒になると不可ないからね』

『ハハアこれは大笑ひで、そんな好い相手があれば牛や馬の代りになつて重い荷物を背負つて歩きません』

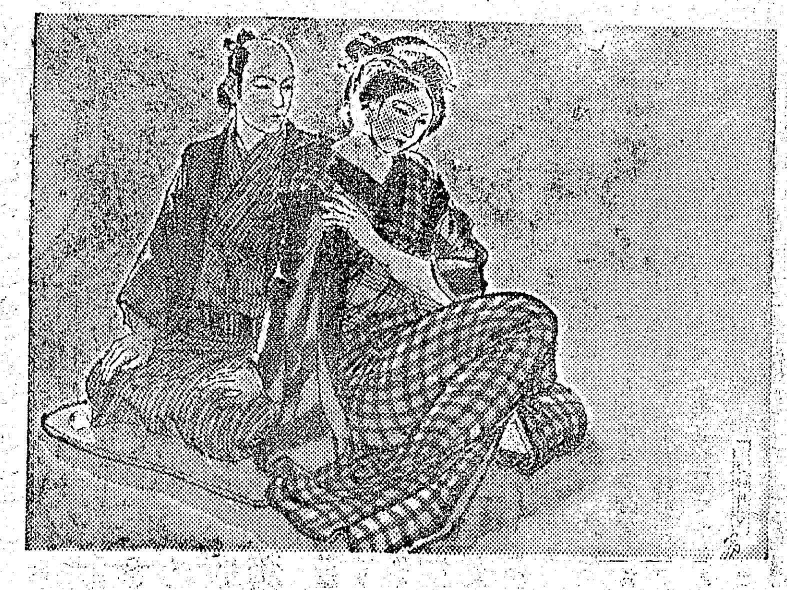
『マア旨い事を云つて、その口で可愛い人に……』

『冗談仰有つては困ります』

『妾は何もかも知つてゐるのさ。あれさ、中腰になんぞなつて夫れ程此處に居るのが嫌ひなの？』

『エ、どういたしまして……』

おらんは唇を噛みながら和七の膝にしなだれかゝつた眞黒な髮が二筋、三筋白い横顔にかゝり、媚めいた眼元で和七を見上げる艶な姿



『何かと思つたらお內儀さん貴女ぐらゐ罪なお方はありません。どうかおからかひなさらないやうに……』

『オヤ、何んでわたしがからかふの』

『それでも本所で一と二と下らない金田屋のお內儀さんが、どう間違つてもしがない呉服屋の手代などを……』

『お前さんがそんな氣でゐるから口惜しいんだわ、でも本當に想つてゐたら和七さん、お前逃げはしないだらうね』

『逃げるどころか和七は心から嬉しく思ひます』

『その言葉を聞いて妾どんなに安心したか知れやしないよ。マアわたしとした事が、こんなことまでむきつけに口に出して恥しい……ネエ和七さん、こんな氣持で居るんだから忘れたら肯かないよ』

と云ひつゝ和七の手をグツと握つた年增女のむせかへるやうな情心、和七もこの女に依つて吉良邸の內情を探り出さうといふのだら得心の態度でおらんの身体をひき寄せる

『ネエ和七さん、今日は外が寒いと見えて家の中にゐても底冷えがするやうだね』

『ヘエお酒を呑んだので身体は温かですが……』

『だつてこんなに手先が冷めたいぢやないか……お炬燵が出來てゐるからお入りな』

『ですがお內儀さん、今日はこれでお暇を致したいと思ひます』

『お前もうかへるの……イエかへさない、わたしにこんなにまで思はして置いてその儘かへるなんて余りぢやないかでは今云つたことはみんな嘘だつたのかい。わたしがこれ程思つてゐるのが判らないかい』

『弱りましたな、遅くなりますと主人に叱られますから……』

『そんな事は口實、お前がいくらかくしてもわたしにはちやんと判つてゐるからね。アノ吉良様の御用人來栖様のお妾のお粂さんのところへでも行くつもりに違ひない』

『そんな事仰有つては困ります。アノ方は手前の店にとつては大切なお顧客様で……』

『本當にお前は惡黨だよ。わたしに數々胸の內の事を喋らせておいてお粂さんの處へ行かうなんて』

『さう仰有るお內儀さんも隨分かくし立てをなさいます。お饅や口取の旨い者をたべ飽きて一寸氣變りにお香をつまむ心算で手前を……』

『マア、わたしが何時かくし立てをしたい』

『たつた今お隠しなさつてお出です。帶の間に挾んである手紙、それはさぞ可愛い人からの……』

『オホ……何んの事かと思つたらこりや吉良様からの手紙だよ……』

姓名鑑定
疾病、職業、天運、家族運、男女緣
名前のみで一代の運命がわかる……
平市紺屋町 鵜沼孝昌

建築木材ノ御用命ハ
木材、天上板
ベニヤ板、建具材
木羽、便利瓦
建築木材一式
織田材木商店
製材工場
平市電四九〇番
磐越東線赤井驛前（大作場）電二三五

お醤油は ㊀
味噌、醤油
たひら正宗
鰹節、食料品
鹽屋 山崎合名會社
明治生命磐城代理店
福島縣平市 電話 營業部一〇番 本店二七番
山崎與三郎

時局の生んだ新案特許 日の丸習字板（第二八〇五七八號）
使用法…半紙節約ノ目的ニテ墨デ書イテ濡雑巾ニテ拭ツテ置ケバ何回ニテモ使用出來マス
實用新案（メモ板 第二十七九〇四號 野球ベール 第一七九七三號 興亞ノート 第二四七九八號）
專賣特許 興亞厚紙 第（イ）一七三六〇號 第（ロ）一七三六一號
合資會社 興亞特許商事
同工場 月見町三三

三宅騏一博士發明（特許肝油）
專賣 特許
ピハマーチ
美味しいビタミンのゼリー
五十錠入 一、一〇
百錠入 二、〇〇
徳用罐 五、〇〇
特約店 平市五丁目 山野邊藥局

＝新時代の要求＝
附屬事業に番外看護婦を特設いたし皆樣の御用向へ身元確實なる婦人を派出致します、
平看護婦會
會長 清野キヨ
平市南町 電三〇七
經濟的な御便宜御用命をお願ひ致します
御手不足の御家庭
輕い御病人の付添
姙婦産婦の御家庭

萬年筆は專門店へ
㊣2·00以上
マルオカ萬年筆本舖
岡萬年筆專門店
平市中央通り

國民精神總動員
日本國民必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報
一部十セン
お取次致して居ります
平二 西村屋藥局 電三

便利で經濟な
日下家政婦會の
派出婦を御利用下さい
＝身元確かで品行方正ですから何をお任せしてもご安心です＝
㊐ 日下家政婦會
平市一丁目三一番地（電話七二三番）
會長 日下すい子
會員同志の御加入（派出なき閑暇に裁縫や編物をお教授致します）を御誘ひ致します

◇和文歐文タイプライター
◇最新事務用品類
◇文房具一式
◇製圖並に測量用品
◇謄寫版並に附屬品
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
平市田町銀座街
藤森（藤森事務用器商會）
電話三七〇番
振替仙臺五一番

磐城のおみやげ品
みやま羊羹
梨羊羹
小川郷驛前 平屋賣店

三笠燒 味自慢
色羊羹 風味萬點
モナカ屋が土茶亭御十斎として始めました、どうぞ最中と同樣御贔負を願ひます
平驛前中央通 米屋最中店

齒科一般
佐々木齒科醫院
日本齒科醫學士 佐々木三郎
泉村小學校前 電話一番

生徒募集
學舍長 法學士 大和田忠良
中等科 男百名
專修科 男女百五十名
教員養成科 男女五十名
磐城佑賢學舍（電話九三番）
㊋校史三十年卒業生四千余名
銃後青少年錬成の道場

周旋開業
永らく料理店にて御贔負に預りました若美家が此程周旋業に轉業致しました故宜しく御願ひ致します
藝妓 娼妓 酌婦
四倉町驛前 若美家
松本キヱ

㊅の削節
冷凍魚、鯨肉、ハムソーセーヂ
海苔、鰹節、其他食糧品
日本水產特約
ヒノマル食品店
平市三丁目 電話三二八番

平病院（元共濟病院跡）（電話四一番）
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
外科主任 副院長 高橋俊幸氏 腎臟ニテ暫ラク靜養中ナリシモ今回全治、一月一日ヨリ再ビ診療ニ從事ス、
內科、小兒科 レントゲン科 物理的療法科 院長 鈴木定藏
內臟一般外科 皮膚泌尿器科 副院長 高橋俊幸
藥劑部長 吉本幸平
每日午前八時より午後九時まで夜間診療に應じます 急患は此の限りにあらず

和洋 金物 鐵 問屋
價も低く 質も高く
良品廉價は
金屋商店
磐城平町五丁目、電話九一番

◎生徒募集
第一學年二百名
入學申込 四月五日限り
平市城山 磐城青年學校

大瀧發電計畫は

會社側の「協定同意」で決る

大瀧發電所問題は既報の如く調査委員提出の協定條項が市會を通過、全委員九氏が繼續して縣當局及會社側と折衝することに成つた

一般市民の中には、市會が調査員提出の「協定事項」を認めたことに依つて、會社側の發電計畫を既に承認したもの〻如く誤解してゐる者も相當あるらしいが、實際は會社側が市會の協定事項を全面的に承認するか否やに依つて、平市が會社に同意するか？が決定するものであつて、今後會社側の態度が注目されてゐる

一方會社側では市會の態度が決定し、協定條件さへ是認すれば會社側の設計變更に同意することと明かに成つた爲社長栗原欣次郎氏は重役である野崎滿藏氏と共に出縣、設計變更許可促進運動を進めてゐる

市民の利益擁護し

要求條件貫徹

「問題はこれから」委員の覺悟

別項、平電力會社が設計を變更せんとする重點は、現在縣の許可されてゐる好間川の上流へ發電所を設立設計を下流に移さんとするものであり・從つて平市の上水道用水は、發電用に使用された水を下流に於てポンプ揚水し、飲料に供する結果となり、從つて平市は上水道に對する不利益を補ふの立場から五項に亘る協定事項を提出するに至つたものである、右について調査委員某氏は市の立場を語る

重要産業の動力と成る發電計畫を全然拒否することが出來ないから、市の將來に於て飲料水に不安を來さない程度の協定を行つた上・設計變更に同意することになつたのである、會社の計畫に同意するかどうかはこれからの折衝にかゝつて居り、十一個の水量を取得する關係から縣との諒辨なども重大な問題です、過去に於て多數の犧牲者まで出してゐるのだから、愼重を期して市民の利益に逆かぬやう努めたいと思ふ

小川江筋總會

石城郡小川江筋組合では來三月一日午前十時から平市團体事務所に通常總會を開き新年度豫算その他の件を協議する

節米會議

青沼市長外三名出席

今二十四日午前十時から仙台市に開かれた大政翼賛會主催節米食糧増産並に節米運動に關するブロック會議に平市では次の四氏が出席した

△市長、青沼鋒太郎△農會渡邊技師△國婦、藤田ミイ△愛婦、江尻ツグ

四倉署管内の

警防團會議

四倉警察署管内一町四ケ村の警防團長會議は今二十四日午前一時より開き來る三月開催する幹部大會について協議した

四倉明年豫算

九萬三千圓

廿六日招集に決定

四倉町の明年度豫算町會は二十六日午前九時招集に決定豫算總額は九萬三千七百六十一圓で前年度豫算額に比較すると一割一分の増額である

おちの良い
マルミ石鹸

炭礦の勞力調節策

『危險』や『特殊病』なし

商店界の轉向者も歡迎

座談會の收獲

既報、平國民職業指導所が炭礦の勞力調節に資するため坑夫の不平、希望等を聽いて解職者豫防並に募集の資料にする「炭礦從業員座談會」は二十三日午後三時から平市マルトモホールに開催、磐城、入山、古河大日本各炭礦勞務課主任及び各縣別に選んだ勞務者二十名國民指導者側から所及び長以下四名、新聞關係者が出席、同六時まで三時間懇談した

先づ所長より「炭礦は非常に危險な處とされてゐるがどうか」と質したのに對し「落盤その他で一般に恐しい處の樣に思はれてゐるが採炭方法も昔と變り未然に危險を防げるから全然そんなことはない」と說明し續いて炭礦には特有の病氣がある樣な事を言ふ者もあるが實際はどうだらうか」と云へば「別に特有の病氣もない」と一同打とけ合つて語り出し、「素人でも炭礦で勞務出來るだらうか」との問ひに普通人ならば最初の一ケ月位辛抱すれば務まる殊に轉失業者は陸上でも仕事に依つては勞務出來るのだから安心して而も燃料報國の戰士として歡喜のうちに仕事が出來るのだから商店街又は轉失に迫られてゐる人々など先の暗い仕事より〃闇〃も〃買溜め〃も消し飛んだ感謝のうちに勞務出來る職域奉公を選んで是非炭山に來て貰ひたいと思つて居ります」と眞劍に述べ收入並に生活狀態を大要次の如く語つた

炭礦は合宿所、社宅、長屋などを利用する關係から生活水準が低くこれに加へて高給であるか眞面目にやりさへすれば相當の貯蓄が出來ます。四年間に二千八百圓も貯金した坑夫さへあるのですから……

◇

指導所では炭礦を知る上に豫想以上の效果を收めたので、座談會の經過を基本にして轉失業者の指導に全力を傾注することに成つた

市學務委員會で

新設校豫算決る

難關の敷地問題も交渉進む

平市明年度の學務關係豫算案を審議する學務委員會は日曜日にも拘はらず二十三日午後一時から市會議事堂に開き明年度に新築する第五小學校新築費及商業學校増築費等を愼重審議した

第五校の豫算は二十五萬圓市立商業學校増築費三萬七千余圓で明年度當初豫算は臨時費に於て前年に比較して二十八萬七千余圓の増額を見るらしい、國民學校令實施に伴ふ施設費は約一萬圓位豫想されてゐるが、諸法令の改正案も決らない關係上追加豫算として計上見る模樣である

新設第五校建設敷地は目下建設委員が躍起と成つて土地買收交渉を進めつゝあり、豫算をとつても敷地が失決問題であるからこの方面に力を注がれてゐる

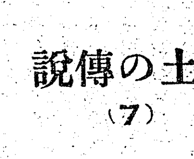
郷土の傳說

（7）

〃蛇〃物語り

城山の白蛇堀

平市物見ケ岡稻荷附近



白蛇堀

平市城山・物見ケ岡稻荷のすぐ東側の下を白蛇堀といつてゐる。今は水が少しあるだけで全然昔の面影がなくなつてしまつたが、平の城が出來た當時は内池として深さが十尋もあつたといふことである　すぐ上の方には中門、三階樓及び八ツ棟櫓が巍然して聳え經七尺九寸餘の老杉が天空を摩して樹つてゐたといふからこの堀の水にはこれらの櫓や老杉が影を映してゐたわけである。大工町の古老の話によるとあの邊一体は樹木も相當に多く生えて居つて現在のやうな狀態ではなかつたらしい。平城は飯野城或は龍城ともいはれたことがあり、蛇の傳說に多少のゆかりを持つてゐる。此堀に昔白い蛇が住んでゐたといふのも龍城といふ名前と緣がつながつてゐるやうに思はれる。この堀の一部に石垣があり、白蛇はそこに住んでゐたといひつたへられてゐる。白蛇堀といふのはそのためである。この白蛇が何か奇瑞をあらはしたことでもあると面白いのだが、別にそんな話はない。

戊辰の戰爭の折寶物をこの堀に投げ込んだといふ噂があるので曾て先代石島氏が人夫を入れて掘つて見たことがあるが、當時安藤子爵の所有だつたので、安藤子から抗議が出て途中でやめてしまつた。

その後今から十年ばかり前に再び坂本氏が掘つて見て現在の形にしたのであるが、その折圓い石が一つ出て來た。夜光る黑い石だつたといふ。新川町の松崎菊三郎氏が石のことに明るいので鑑定して貰つたら、雲母石だといふ話であつた。

坂本氏がその後新藤次郎國廣作の二尺八寸ばかりの刀劍を手に入れた（坂本氏は物見ケ岡稻荷の神主）鍔元の方に五寸ばかりの龍がほつてある時價七百圓位のものだといふ　その時石島氏は『それは君が白蛇堀を手入して立派にしてやつたから、その緣で手に入つたのだ』といつてくれたさうだが、此刀も昭和十三年四月十二日の火災の折に燒けてしまつて、眞黑になつて曲つてしまつた。（坂本松衛氏の談による）

◇

絹谷の青瀧に就いての傳說に就いて次のやうな記錄がある。

猶葉郡金澤村に勘太郎といふものがあり、勇敢で、平生海水に入つて鰒貝をとつて業としてをり、水泳が巧だつた。此男に水中に入つて調べさして見ると、大蛇が樋の中に尾をさしとんで水を出さないのである。そこで堪太郎は利刀を腰にして水中に入つた、暫くすると水がゆれ動き一條の鮮血が丈餘も水面にほどばしり出で激浪が起り山鳴りがし谷が動いた。見物人は恐れて皆逃げてしまつた。後その蛇の死骸を見たものがあるが大きさは斗樽位もあつた。

御誂ひも既製品も
高島屋洋服店
平二　電三八六

歸還後發病死去に

「戰病死」の恩命

平市正月町小松氏一家に福音

出征軍人が郷土に歸還後發病死亡したのが『戰病死』に認定され、靖國神社へ合祀され特別賜金下賜の恩命に浴すことに成つた

平市正月町二番地居住全六丁目平煉炭工場職工長小松實さんは去る昭和十四年十二月、北支戰線で武勳を樹てゝ歸還したが、數日經て發病醫師の診斷の結果腸チブスと判つて平隔離舍に收容され、治癒するに至らず黃泉の客と成つた然し歸還直後の發病死亡をそのまゝ一般的な死亡と見ることは出征將士の士氣に關する問題であると經營主吉田五平氏は意見書を提出した結果、陸軍省も「公務に起因したもの」と認めて戰病死の取扱ひを受け特別賜金御下賜の恩命に浴した旨二十二日平市役所へ通知があつたので遺族一同は皇恩に感泣してゐる

右について吉田五平さんは喜んで語る

腸チブスは潛伏期間が長いので歸還前に感染乃至羅病したことが判つたから醫師の證明を添へて意見書を提出したのです、歸還後の發病に依る死亡は多くの場合そのまゝに過すやうに思はれますが軍の方針は『公務に起因』した場合戰病死として認めることに成つてゐるやうです

嚴冬逆行の

『寒さは峠』

一日毎に暖くなる

〃暖い冬〃を裏切つてこゝ二三日來の肌をさす寒氣は『嚴冬逆行』を思はせてゐるが神谷村農事試驗場の觀測に依ると（最低氣温）

△二十一日氷點下零度二分

△二十二日三度二分△二十三日三度四分△二十四日氷點下一度二分

で氷點下二度までは降らず水銀計も大して縮んでゐない即ち從來の氣温が三度内外であつたため最近の氷點下一度七分では四度以上の隔りがあつたのと西北風が吹き荒んだ爲め一層身に寒さが泌みたものである

これからは〃梅一輪、一りん毎の暖かさ〃がやつて來ます

平經濟生活相談所

今日から開業

民衆の指導相談に乘出す

既報、平署の「經濟生活相談所」は今二十四日から開所、新たに任命された相談委員は左の十八名で午前十時から第一回の委員會を開いて相談規程を審議する處あり、民衆のよき相談相手として發足した

相談委員

△（平方部）伊藤秀吉、猪狩庄平、柏原幸次郎、菅本庄治、永山勇吉、諸橋久太郎金子重治、關内正一、松崎昇太郎、關勝茂、山野邊東次郎、安藤金治△（内郷）沼田濱之助△（湯本）矢吹莊司栗原森之助△（小名濱）高木保、御代定吉△（江名）吉田勝彥

◇平經濟相談所では獨立性を持たしむるため署の構内へ建物を新築する計畫も樹てゝゐる

市内各銀行扱ひの

報國債券賣出し

二十一日から賣出した貯蓄債券並に報國債券の平市内への割當數は次の如く何れ賣行き良好の模樣

【農工銀行】△貯蓄十五圓券五十枚、七圓五十錢券二十枚△報國十圓券五十枚、五圓券二十枚【七十七銀行】△貯蓄十五圓券百枚、七圓五十錢五十枚△報國十圓券百枚、五圓券五十枚【常陽銀行】△貯蓄十五圓券二百五十枚、七圓五十錢券二百五十枚△報國十圓券二百五十枚、五圓券二百五十枚【磐城無盡】△報國十圓券百枚五圓券二百枚

少女の迷ひ子

神谷の佐藤友子さん？

二十四日午前九時頃平市四丁目街角に六、七才位の女の子が道に迷つて泣いてゐるのを同新川町石炭商佐藤久太郎さんが見つけ平署へ届出た、自稱佐藤友子で家は「神谷の隣」と泣き續けてゐる

磐城無盡で

社員表彰

平市大町磐城無盡會社に於ける伊勢皇大神宮勸請奉祝祭は既報の如く廿三日執行されたが同社では當日隣組その他を招ぎ優良社員左記の表彰を行ひ祝宴を開いて午後四時過ぎ散會した

▲集金賞一等白河出張所、二等原町、三等小野新町出張所▲進歩賞若松坂内正則桑折安達廉義▲特賞勿來草野芳之助、飯坂大橋胤▲契約賞優勝旗福島出張所、一等佐藤淺吉・二等谷口弘仁三等秋元一三、進歩賞金谷基荒大藤太郎▲珠算競技一等橋本一二、二等白土フク三等吉田武弘、進歩小川捷彥▲内務員精勤賞一等若松清彌、二等草野直子、三等川崎初子▲國民体操會賞一等佐藤邦一、同野澤登記枝二等鈴木正男、同川崎初子同白土フク、同中澤清子、同西部京子、同早川スミエ（以上）

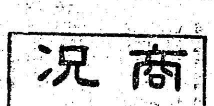
春職に入り鰯不漁

加工業者惱む

各漁船共季節風の凪を待つ

愈々鰯漁も春職に入つて最後の金的を獲ようと張り切る小名濱、江名、豊間、四ツ倉各港揚繰漁船は張り込む氣力もどこへか飛んで重油不足と連日の强風に惱まされ一週に二三回の出漁で僅かに餘命を保つ狀態と成つた、このため値段もピツンとはね一ダメシ五圓五十錢から六圓台の馬鹿値で取引されてゐる

◇…一方鰯頬刺加工業者は關西、大陸方面の大量注文に接しながらも生鰯が水揚げされないため算盤にあはぬ高値段で買込みに大童と成つてゐる、だが鰯群は四ツ倉沖合を游泳してゐるから連日の季節風さへ凪れば大きな期待は出來る



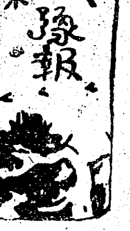
（二十四日）

	高値	安値
葱	十五	一〇
人參	一五	一〇
油菜	七	三
ホウレン草	五五	三五
牛蒡	四〇	
里芋	五五	
馬鈴薯	四五	三五
大根	八	五
白菜	二五	
大和薯	一四〇	

【鮮魚】（錢單位）

ドンコ	百匁	一三、〇
マグロ	同	四〇、五
平目	同	五四、〇
マコ	同	二〇、〇
小平目	同	三五、〇
頬刺	同	一五、〇
うで蛸	同	二八、八
のどぐろ	同	一八、〇
タラ	同	一〇、三

（單位厘）



今晩　北西の風晴れ晴の天氣です

明日　北西の風晴れてゐますが後に薄雲りとなります

（二十五日）

滿潮　前四、三〇　後三、五五

干潮　前九、五五　後一〇、三五

舊正月卅日　火曜　甲辰　赤口　滿　翼宿

新二月二十五日

▲一白　玉も磨けば光を出だす撓まず勵まるゝが吉

▲二黑　意志通りに運ばぬとて焦るな定業確保が吉

▲三碧　鋭氣控けて成功覺束なきに至る辛抱が第一

▲四綠　誘惑の手の延び來る日心動きは不利を生ず

▲五黃　成るに近き事も我意に募りて破るゝ事あり

▲六白　氣運佳良にして大利をも望み得べく繁昌す

▲七赤　喜悅重り來らんとする日怠りの念を起すな

▲八白　計畫は談合の上進むべし獨斷は後悔する日

▲九紫　勢に任せ進むに過ぎて損耗を招くことあり

國產ミシン界の王

迷はず迷はされず國產隨一
音も具合も調子も滿點

アサヒミシン
精研舍ミシン
ニッポンミシン

シンガーに優る共劣らざる機構
厚物、薄物、和服、洋服裁縫自在

販賣代理店
シンガーミシン商會
平市驛前田町

磁氣治療開業

マグネタイザー適應症

●高血壓 ●胃腸病 ●蓄膿症 ●痔疾患 ●中風病 ●脚氣 ●泌尿 ●心臟病 ●神經痛
●生殖器諸症 ●カリエス ●呼吸器病 ●婦人病 ●小兒虛弱體 ●ロイマチス ●ゼンソク ●其他諸症治療

治療所
平市田町
シンガーミシン會社二階
平磁惠院
物理治療

◆生徒募集◆

一、募集人員

1、本科一年（二ケ年卒業）八十名
2、裁縫專修科一年（二ケ年卒業）八十名
3、師範科（一ケ年卒業）二十名
4、專修科（一ケ年卒業）二十名
5、『附設』洋裁科（六ケ月修了）二十名

二、入學手續

右各科入學希望者ハ本校規定ノ入學證書ニ適宜記入捺印ノ上三月三十日マデニ平市藤田女學校宛ニ提出ナサイ、但シ定員ニ充チタル場合ハ期日前ト雖締切ルコトアルカモ知レマセン

三、其の他

◎詳細ハ本校宛學則請求ナサイ（返信料三錢封入ノコト）

昭和十五年二月

福島縣平市田町
文部大臣認可
藤田女學校
電話三二八番

純綿純毛品提供に就て

◎純綿、純毛の更生品提供に就て當店主伊關房次は日露役に參加し奉天戰に負傷、傷痍軍人の呉服商となつたが今支那事變に資材充分でないところから商業組合理事として配給使命を達成すべく全國產地を視察見學の際思ひ付たのが更生品の配給である、これならば農山村から確かに喜ばれ樣と昨年から始めたところが異常な好評を受けてゐるのでありますどうぞ御遠慮なく御覽下さい

純綿、毛オーバ
背廣、ジャンバー
野良着、ズボン、
カスリ、その他

平市二丁目角
伊關呉服店
電話三三三番

配達員募集

高等科生乃至中等校の生徒數名、優遇す

磐城毎日新聞社